

おはようございます

5月23日から三日間、5年生と岩井学園（千葉県南房総市）へ移動教室に出かけてきました。初日は、あいにくの雨模様でしたが、あとはお天気もよく、鋸山の登山、岩井海岸での散歩や貝拾い、星空観察など、たっぷりと自然の中で楽しんできました。

朝会は二日とも、近くの岩井海岸へ行って海を見ながらラジオ体操をしました。その岩井海岸へ行く道では、どの家のお庭にも、びわの実が色づいているのが見られました。

私には、そんなびわの実を見るたび思い出す、うれしい出来事があります。この話は6月の学校だよりに今書いているのですが、みなさんに先にお話しようと思います。

6月のある日、「あの給食の枇杷が、今年初めて実を結びました。」と、卒業して何年も経つAくんのおかあさんから、お皿に盛られたいくつかの枇杷の実の写真といっしょにメッセージをもらいました。

私は、Aくんの1・2年生の時の担任の先生でした。Aくんは、給食に出た枇杷の種の、つやつやとした色や形をとても気に入り、宝物のように手に握って、「家に持つて帰りたい。」「お母さんに見せたい。」と、私のところへやってきて言いました。

「家の庭に埋めたら、芽が出て大きくなつて、いつか枇杷がなつたら、この種はもっとたくさんに増えるかもしれないね。」と話して、私は家に持ち帰らせました。そして、家に帰ったAくんは、その日のうちに庭の隅に一粒の枇杷の種を埋めたのです。

——それから11年、枇杷はどんどん成長を続け、見上げるような木に成長したそうですが、それまでは一度も実をつけませんでした。それがその年、Aくんは大学生になっていましたが、とうとう実を結び、Aくんの家の食卓に飾られたのです。

私はこのわずか数行のお知らせを、本当にうれしく受け取りました。
この枇杷の実の写真は、私にとって、Aさんご家族からもらった、大切なおくりものです。

みなさんも、1年生のAくんのように、この種をうえたらどんな芽が出てくるのかな。びわのみがたくさんなつたらうれしいな。」と、不思議に思うことや、チャレンジしてみたくなることに、これからたくさん出会うことだと思います。どんなことでも、疑問や気付きは、そのままにしないで、調べてみたり、できれば自分で実際に試したり確かめたりするようにしてみるといいですね。

小さい学年の方は、先生やおうちの方に相談してみるのもいいとおもいます。

そして、あたらしく見つけたことやわかったことは、先生にもぜひ教えてくださいね。
お話を終わります。